

巻頭言

愛知教育大学健康支援センター センター長・教授 田中 優司

2021年は引き続き、新型コロナウイルスが医療界のみならず、社会全体・全世界に影響しています。

2020年末から第3波が始まり、2021年に入ってすぐに、2回目の緊急事態宣言が発出され、3月末まで続きました。

2月には厚労省は新型コロナウイルス感染症ワクチンを特例承認し、国内でのワクチン接種が開始しました。先行接種は医療従事者から始まり、続いて高齢者、一般の方へと順次すすめられました。

4月からの第4波は関西圏が感染の中心となり、3回目の緊急事態宣言が発出され、6月まで続きました。関西圏では相当に医療が逼迫しました。

7月からの第5波では、新型コロナウイルス感染症のデルタ株による感染が急拡大しました。4回目の緊急事態宣言が発出され、9月まで続きました。1年延期された東京オリンピック・パラリンピックが開催され、異例な形となりました。この時期には、入院調整中に自宅で亡くなる事例や、救急車を要請しても受け入れ先が見つからず何時間も待機する事例などが報道されました。

11月には日本国内の感染が落ち着きつつありましたが、南アフリカでオミクロン株が発見されました。その後、これまで以上の急速な拡大をしています。政府は外国人の新規入国の一時停止などの対応を行っています。

本学においても、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まってから、授業開始の変更、構内入構禁止、遠隔授業の導入、部活動やサークル活動への影響、各種の学内行事の開催中止や変更などがありました。本学Webページでは「新型コロナウイルス感染症への本学の対応について」に情報が随時更新されています。

学生・教職員におかれましては引き続き、感染予防対策が重要であります。また学業に関すること、経済的なこと、こころに関することなどにも影響を及ぼしています。センターでは様々な対策をすすめております。新型コロナウイルスが早く収束することを祈念しています。

健康支援センターでは、今後も、学生・教職員の健康支援をすすめていきます。

今後ともよろしく申し上げます。